

ふるさとわかがまちづくり

中越戸自治区

◆ 「中越戸」の由来

中越戸自治区は、矢作川の中流域に位置し、集落の大部分は、この川に沿って連なっています。

中越戸の歴史は古く、紀元前2500年縄文中期時代から人々が住んでいたということが、越戸町の船塚遺跡によって明らかにされています。

弥生時代に入って「米作り」が始まると、農耕地と水に恵まれたこの地域に人々も集まり、集落(村里)が形成されるようになりました。

◆ 矢作川右岸 最上流の川港

時代の経過と共に生活文化も向上する過程で、矢作川流域という地の利を生かし、いち早く、水運をうまく利用してきました。その証拠に、中越戸の「神ノ木」堤防内河川敷に土場(川港)が越戸土場として残されています。

この越戸土場は、矢作川右岸の最上流の川港で、昔からこの地方の年貢をはじめ、生活物資の集散地として栄えたと伝えられています。

◆ 灰竈神社

かつての大字越戸(現在の平戸橋一区・二区と、中越戸・下越戸)地域の鎮守の氏神である灰竈神社が、中越戸「松葉」に祀られています。慶雲3年(706)年創立とも言われ、当地方で最も古く、延喜式という格式の高い神社です。



この灰竈神社は、以前(明治の初めまで)は八王子社といわれ、昔の鳥居には八王子社の額が掛かっていました。そして、その八王子社などの別当職をつとめ、神社をとりしきってきたのが東小笹にあった「真言宗大日山宝隆院」です。

この宝隆院は1340年から明治初年(1868年)まで15代続いたお寺です。初代の住職は「鈴木政貞」といって126歳まで生きた記録があり、そのお墓が小笹墓地の高いところにあって「越戸塚」といわれています。



◆ 石神大明神

宝隆院の跡地の南端には石碑が立ち、その下段に「石神大明神」が祀られています。通称「石神(いそがみ)」さんといわれ、無病息災を祈願する人たちに慕われています。

また、現在中越戸に残されている唯一のお寺である真言宗「観音院」は、この宝隆院の分院といわれ、現在、三河新四国霊場13・14番札所となっています。



環境美化活動

◆ 中越戸マレットゴルフ同好会

越戸公園マレットゴルフ場の利用者と地域住民に愛され、親しまれるマレットゴルフ場作りのため、マレットゴルフ場及び周辺の環境整備を行っています。



◆ 現在の課題と将来に向けて

平成20年度から、自治区長職2年制となりました。安心して過ごせる自治区、明るい自治区、楽しい自治区であり続けるようにするには、区民の絆や連携を大切にしています。



地域安全活動

中越戸自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：377世帯

：88世帯(昭和51年)

組数：11組

面積：0.32Km²

自治区たより：「なかごしど」

年4回発行

回覧：月2回

ちびっ子広場：1箇所

ふれあい広場：1箇所

防犯灯設置箇所：22箇所

小学校：青木小学校区

自治区会館：中越戸公民館(TEL45-9199)